

## プロローグ

### まずは「食わず嫌い」にならないために

#### 政治に目を向ける

本書が想定している読者は、これまで政治について書かれた本をまったく読んだことのないという人々である。そこには、大学に入っただけの新生はもちろん、すでに社会に出て働いていたり様々な活動をしている人々、つまり「ふつうの市民」も含まれる。もちろん、個人差はあるだろう。新聞に目を通したり、テレビやネットで政治関係のニュースをこまめにチェックをしている人もいるだろう。いやいや、日頃のニュースなんかまったく関心なし。しいて言えば、芸能ニュースを見るくらいかな、という人もいるだろう。どちらかと言うと、後者のタイプの人が多いかもしれない。

しかし、ちょっと考えてみてほしい。新聞の第一面に目を通せば、そこには政治関連の記事が掲載されている。テレビのニュース番組でも、大きな災害などが起こらない限り、政治関連のニュースから始まるのがほとんどだ。これはおそらく、政治というものが私たちの生活やこれからの社会のありように大きな影響を与えるからなのではないか。この間の新型コロナウイルス感染症問題により、日常生活の変容を迫られた経験から、政治と私たちの生活がいかに強く結びついているか、身に染みてわかった人も多いだろう。だとすれば、一人ひとりの生活者として、この社会を支える一人ひとりの市民として、政治と

いつものに目を向けてみてもよいのではないだろうか。

とはいえ、多くの人にとって政治の世界はとつきにぐく小難しい世界なのかもしれない。また、個々のニュースを漫然と見ているだけでは、ニュースの背景や政治的出来事のもつ意味はなかなか理解しがたいのではないだろうか。

### 「食わず嫌い」にならないために

しかし、政治というものは、私たちに一生つきまとうものである。なので、まずは政治についての「食わず嫌い」にならないことが大事なのではないか。そのために、本書では、政治を理解するうえで必要な事柄について、素朴な問いを立ててみることから出発する。

あなたなら、その問いにどのような答えを返すだろうか。本文を読まないで、自分なりの答えを考えてみよう。なかには、一言も言葉が浮かんでこない、という人もいるだろう。それでもいいので、うんぐんと唸りながらも答え探しをしてみよう。冒頭の「学ぶポイント」を参考にしてもらってもよい。ちょっと頭の体操を行ったあと、本文を読んでもらうことになる。問いに対してどんな答えが書かれているか、興味をもって読み進めてほしい。ひとつだけ注意しておきたいことがある。実は、本文に書かれていることは、唯一絶対の答えではない。ありうる答えの一つではあるが、他の答えもありうるのだ。えっ、と思うかもしれないが、人間が織りなす複雑な政治の世界についての見方、考え方は決して単一ではない。様々な答えの可能性に開かれた柔軟な思考こそが、政治を理解するうえでは重要なのである。

## 「つながる政治」の二つの問い

政治の世界は、一人の人間の単独の行為によってつくり出されるものではなく、人々の様々なレベルでの共同の営みから生み出される。人々のつながりの集積が政治の世界だと言っている。だとすれば、私たちが政治の世界とどのようにつながっているのかという問題関心が、政治を理解していくうえでの出発点となる。また、私たちが接する様々な情報や知識は、バラバラにあるのではなく、相互に結びついたり影響を与えあったりしている。政治の世界を理解するには、一見バラバラに見える情報や知識を、自分なりにつなげて考えていくことが不可欠である。本書のタイトル「つながる政治」には、私たちが政治とのつながり、政治に関する情報や知識のつながりという、二重の意味が込められている。本書は三つの柱からなっている。第一の柱「身近な暮らしからの問い」では、私たちの実際の暮らし、日常の暮らしに政治がどのような影響を与えているのかを考えてみよう。ここでは、私たちの身近な問題である税金と政治の関係、ジェンダーを切り口とした人々の多様性と政治の関係、そして私たちが実際に暮らす地域の政治について取り上げる。

第二の柱「変容する世界からの問い」では、日本をとりまく世界の変容という観点から考えてみよう。在日駐留米軍が集中する沖縄から考える安全保障の問題、被爆国でありフクシマを経験した今日から考える「核の時代」、グローバル化する世界における経済と政治の問題、歴史認識問題を中心にした日本とアジアの関係、そして最後に、「国境」という問題を切り口にした国家間関係とは位相を異にした世界の可能性。

三つ目の柱「政治への問い／政治からの問い」では、政治についての基本的な見方について考えてみよう。日本を含む多くの国々が採用している民主主義の考え方や現状、民主

主義を支える選挙という仕組みと可能性、私たちの生活を左右する政策がどのような背景と意図でつくられるのかという問題、そして最後に、そもそも私たちが政治を考えることがもつ意味とはどのようなことなのか、を取り上げている。

各章の冒頭にはそれぞれ、学ぶポイントを三つ示している。これを頭の片隅において読んでみてほしい。また、「考えてみよう」は、各章の復習でもあり、応用問題でもある。学習した内容を基に、みなさん自身が考察を試みてほしい。さらに法律文化社のウェブサイトで、「おすすめの文献」として各章三冊の本を推薦している。もっと学びたいと思った人は、これらの文献の一冊でもいいので、ぜひチャレンジしてみてほしい。

以上が本書の構成である。言うまでもないことだが、本書の論点だけで、政治の世界についてのほとんどすべてのことを知ることはできない。むしろ政治の世界は複雑で多様であるので、本書で取り上げることができなかった論点は数多くある。また、最初に述べたように、本文の説明自体もまた問いに対するありうる答えの一つである。

一二の問いはみなさんの前の食卓に並べられた料理だとしよう。できれば食べ残すことなく完食してほしい。しかし、ざっと眺めてみて、どこから箸をつけるのかは自由である。一番大切なことは、みなさんが実際に食べて味わってみること、すなわち自分の頭で政治に関する物事を考えてみることなのだから。また、改訂版では、コロナ禍という私たちを取りまく厳しい状況のなかで、ぜひ考えてみてほしいいくつかの論点についてのコラムを追加した。まずコラムを読んで、みなさんの現在の関心を確かめたうえで、各章を読み始めてもいいだろう。本書に触れたことによって、みなさんが政治について自ら考えてみることに、政治について周りの人々と話をしてみることに、の入り口にしてもらえればと思う。